

考えて、人の気持ち



岡山市・岡山中2年 黒川 紗那

記事を読んで、涙が出た。どんなに苦しく辛かっただろう。震災で色々なものを失って希望を託した新天地でのいじめ。けど彼は耐えた。命の本当の尊さや価値をきちんと分かっているから。いじめられている側だけど、本当に心が強いのは彼の方だと思った。

関連記事は連日報道された。色々な会見を見たが、責任の擦り合いにしか映らない。市も学校も本人や保護者の再々の訴えに関わらず、重大事態と捉えず、介入出来ないと放置した。いじめを認定すると、自身の管理監督責任が問われるからだろう。いじめがない学校や先生を評価するのではなく、いじめを見つけ気付き、対応して無くした先生を評価する様に変えたいのにならぬ。

いじめ対策推進法があるのもこの事件をきっかけに知り、調べた。この法律の制定背景もいじめによる自殺だ。この中で「いじめ」を定義し明文化した。「いじめとは、子供が、あ

る子供を心理的、物理的に攻撃すること、いじめられている子の心や体が傷ついたり、被害を受けて苦しんだりすること。インターネットいじめも含まれる」とある。受けた本人が心理的に苦しいと感じると、周囲が

も頼もしい法律だ。そんな法律をみんな考えて作ってあるにも関わらず、いじめが原因の自殺は後を絶たない。法律があっても適用しな

れれば、みんながそれを周知して動かなければ、全く意味がない。今回の問題も、彼が命の尊さを知っていたおかげで自殺は免れたものの、まだ学校に通えないし、深く傷ついた心の傷は直ぐに癒されるものではなく、これ

から彼と家族の闘いは続くだろう。負けないでほしい。どうか皆さん、自分の周りの状況に注意を払って下さい。鈍感なフリをせず、手を差し伸べ

て下さい。いじめで苦しんでいる人達へ、相談出来る所はたくさんあります。勇気を持って声を上げて下さい。助けを求めて下さい。生きていけば必ず抜け出せる時が来ます。あなたが生まれ、その未来を想像し大切に育ててきた人達がいる事を忘れないで。命を絶つ事だけは絶対に選ばないで！そしていじめている人、どうか想像して下さい。

生徒「死選ばないで」

震災避難いじめで両親会見

東京電力福島第1原発事故で福島県から横浜市に自ら避難した中学1年の男子生徒(13)が避難直後から小

学校でいじめを受けていた問題で、両親が23日、横浜市内で会見し、生徒が全国でいじめに苦しむ子どもた

状態だったが最近、自転車に乗って外出したり、「今通う」フリースクールは楽しいと話したりしている。父親は「子どもに光が見えた」と述べた。生徒が小6の時に「ばい菌扱い」だったことなどをつづった手記について、母は「小学校から直接の謝罪はない。父親は、いじめ防止対策推進法に基づく「重大」と訴えていながら動

2016年11月24日付 山陽新聞

寸評

切とし、「人が皆、他人を少しでも思いやれば」と熱い思いをつづっています。

いじめ問題をテーマにした新聞感想文の中で秀逸でした。法律だけでなく当事者や周辺の意識が大